

小 児 科 学

教 授 岡 田 敏 夫
助 教 授 鈴 木 好 文
助 手 樋 口 晃

1. 研究概要

「小児期における蛋白尿の研究」を主テーマに、従来より集団検尿を通して、蛋白尿の頻度、年齢差、疾患別頻度などについて報告を行ってきた。

1) これら疾患の中には現在なお診断未確定例が存在し、また新しい疾患の発見も期待され、早急に究明が望まれる。

2) 小児科領域における重要な課題の1つとして新生児期より思春期までの、いわゆる成長に伴う尿中蛋白質成分の年齢的差異に関する検討がいまだ行われていない。

3) 小児期に最も頻度の高い体位性蛋白尿の病因についてもいまだ確立されたものはない。そこで、これらの課題について、腎機能の面より、尿蛋白成分分析面より、また、腎組織像より解明すべく研究を行っている。

腎機能面では、日常ルーチンに実施されているレノグラムより腎機能検査値を推定出来る数式モデルを作り、臨床応用を行うべく研究をすすめている(岡田)。また、従来行ってきた尿蛋白分析法にあらたにSDS-polyacrylamide gel 電気泳動法を用い、尿蛋白成分を質的面より解明すべく研究を行っている。(鈴木)。さらに異常所見者には腎組織レベルでの検討が必要であり、光顕、電顕、蛍光抗体検査法よりの検討を行っている(樋口)。

最終的に、これら臨床所見・検査成績を総合し、腎疾患の診断法の確立、治療の設定、予後の推定が可能になるのではないかと考えられ、研究を進めていくつもりである。

2. 学会発表

1) レノグラムの数式モデルと臨床応用：小管大介，岡田敏夫，岡田正彦，第13回日本小児腎臓病研究会，52，5，盛岡。

2) 学童の蛋白尿：岡田敏夫，第327回新潟医学会(最終講義)，52，5，新潟。

3) 尿蛋白質成分の微量電気泳動法による解析法の確立：山村研一，荻田善一，小林 収，岡田敏夫，鈴木好文，第27回電気泳動学会，春季大会，52，5，東京。

4) 集団検尿で発見された尿細管障害型蛋白尿を示す兄弟例：岡田敏夫ほか4名，第179回北陸地方会，52，6，金沢。

5) SDSポリアクリルアミドゲル電気泳動法による尿蛋白分析(第1報)。鈴木好文ほか5名，第109回，新潟地方会，52，8，新潟。

6) SDS-polyacrylamide gel による尿蛋白成分の分析(第1報)。第20回日本腎臓学会総会，岡田敏夫，鈴木好文，小林 収，荻田善一

3. 刊行論文・著書等

1) 岡田敏夫：腎の放射線学的検査。小児科 9 (2)：215-221，1977。

2) 岡田敏夫：小児の尿路感染症。1977年治療指針 568頁，医学書院，東京，1977年。

3) 鈴木好文，保科弘毅，渡辺信夫，長沢俊彦：血中甲状腺抗体の陽性をみた immune complex 型腎炎の1例。小児科診療 40(5)：543-546，1977。

4) 小林 収，岡田敏夫，鈴木好文，和田博義，大川賢一ほか：小児期腎の重複障害による病態について。日本医事新報 2785：25-31，1977。

5) 小林 収，岡田敏夫，鈴木好文：小児科領域における胸水腹水。臨床と研究 54(4)：1123-1129，1977。

6) 小林 収：小児腎疾患診療の手引き(集団検尿のために)。小林 収編，八木書店，東京，1977。

7) 小林 収：原発性ネフローゼ症候群，原発性腎疾患以外の原因によるネフローゼ症候群，新内科学大系38巻泌尿器疾患II，123-161頁，中山書店，東京。

8) Kobayashi, O. et al.: Schönlein-Henoch's syndrome in children. Contribution to Nephrology 4：48-71，1977。